

環境保全に関する調査

6月に行われたサミットにおいて、「地球温暖化」がメインのテーマとなり、各種報道においても、「環境」に関する記事が多く見られるようになりました。また、スーパーのレジ袋の有料化やゴミ分別、ハイブリッドカーをはじめとするエコカーの普及など、わたしたち生活者の周りでも、環境問題に対する意識が高まっているように思います。そこで、イー・ウーマンリーダーズに、毎日の生活の中で「環境保全」のためにやっていることや、企業や国の環境対策についてどう思っているか、聞きました。

■ 日本における「環境」に対する意識は、世界と比較して低いほう…… グラフ1

今、日本における「環境保全」に対する意識が、世界的に高いほうだと思うか、低いほうだと思うか聞いたところ、「低いほうだと思う」が42.9%で、「高いほうだと思う」(16.7%)をはるかに上回りました。その理由については、国や企業の取り組みについては評価するが、個人の意識が低い、という声が多く見られました。環境よりも利便性や経済的な視点を重視する傾向が強い、と感じているようでした。特にゴミの出し方について、分別をしっかりと意識をもってやっている人が少ない、過剰包装などによるゴミが多い、などといった声が多く見られました。また、他国に関しては、ヨーロッパが比較的高く、アメリカが低い、と感じている人が多いようでした。

■ イー・ウーマンリーダーズの環境への意識は？ …… グラフ2 グラフ3 グラフ4

では、スマートコンシューマであるイー・ウーマンリーダーズの環境への意識、参加度はどうでしょうか。「環境保全」に関するイベントやリサイクル活動、美化・清掃活動への参加経験を見ると、「積極的に参加している」「参加したことがある」を合わせて55.0%と半分以上でした。また、毎日の暮らしの中では、「リサイクル、分別収集に協力する」が最も多く87.3%、次いで「冷房・暖房温度の設定に努める」77.5%、「てんぷら油や食べかすを排水口から流さない」75.6%という結果に。買い物の際のマイバックの利用率は「利用している」人が68.3%。比較的意識も参加度も高いと思われる。

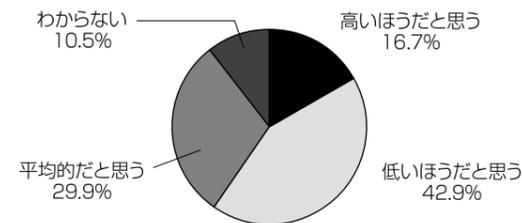
■ 「環境保全」と「経済」「利便性」の関係 …… グラフ5 グラフ6

「環境保全」と「経済発展」や「利便性の向上」は、場合によっては相反することになるイメージがありますが、実際、どうとらえられているのでしょうか。経済との関係については、「環境保全の取り組みを進めることは、必ずしも経済発展を阻害するものではない」という考えがもっとも多く46.0%、次に「経済発展に多少の悪影響が出て、環境保全の取り組みを積極的に進めるべき」で29.6%、「環境保全の取り組みを進めることは、経済発展につながる」と思っている人は3番目に多く、21.2%でした。また、利便性との関係については、自動車を例に聞いて見ました。「ある程度生活が不便になっても、自動車による環境問題を改善する方がよい」が46.3%で最も多く、次いで「一概に言えない」が43.2%という結果に。「環境保全」を進めていくことが、「経済」や「利便性」をマイナスにしてしまう可能性がある、という意識がありつつ、でもそれに取り組んでいく必要がある、という認識がうかがえます。

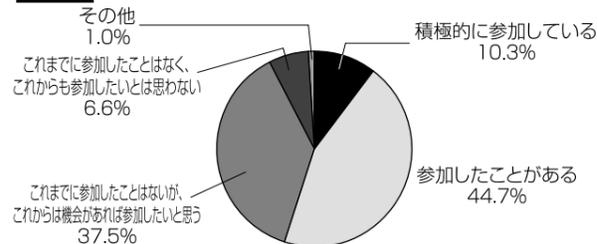
■ 企業の環境への取り組みは、消費行動に影響するか？ …… グラフ7

今、多くの企業が「環境保全」の取り組みをしていますが、そうした取り組みは、実際に、消費者が商品やサービスを購入する際に影響するのでしょうか。商品を購入する際、それを提供している企業の環境保全の取り組みを意識するか否か、聞いて見ました。結果は、「意識する」という人が、意識しない」という人が約半数ずつに。「意識する」と回答した方に、どのように「意識している」のか、聞いてみたところ、「リサイクル素材を利用した商品を選ぶ」「詰め替え用を用意している商品を選ぶ」といった声が多く見られました。また、商品パッケージをチェックしたり、その企業のホームページを調べる、メールで問い合わせる、という声もありました。

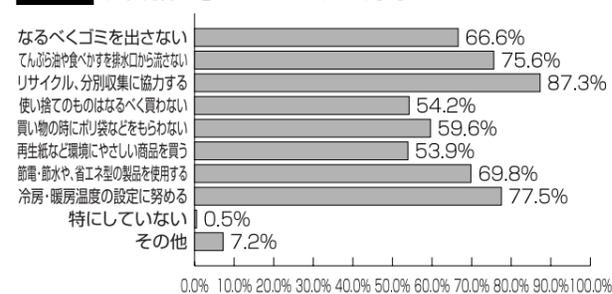
グラフ1 日本における「環境保全」に対する意識



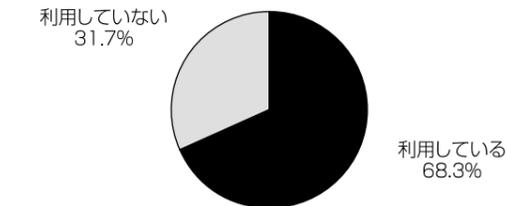
グラフ2 環境に関するイベント・活動への参加



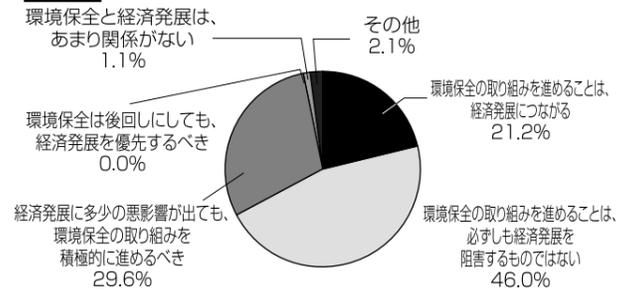
グラフ3 「環境保全」のための工夫や努力



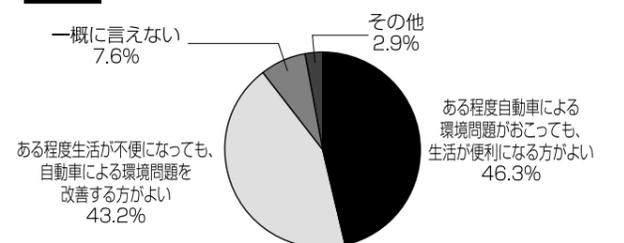
グラフ4 マイバックの利用



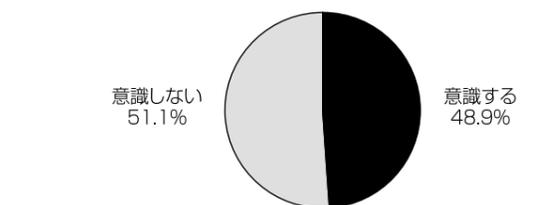
グラフ5 「環境保全」と「経済」の関係



グラフ6 自動車の利便性と環境問題



グラフ7 商品を購入する際、それを提供している企業の環境保全の取り組みを意識するか？



<調査概要>
調査実施:2007年6月21日(木)~6月26日(火)
調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
対象:イー・ウーマンリーダーズ
有効回答数:622名

LEADERS DATA

